

大豆栽培暦「エンレイ（えんれいのそら）」

令和7年3月

大豆の生育

【栽培のポイント】

- ・土づくりの実践と適正な施肥
- ・排水対策の徹底
- ・適正な播種
- ・雑草防除
- ・的確な中耕培土
- ・莢数確保のための畦間かん水
- ・適正な病害虫防除
- ・適正な収穫・乾燥



月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

- 作業名
- ①排水対策
 - ②種子消毒
 - ③土づくり
 - ④耕起・基肥施用・播種
 - ⑤雑草防除：土壌処理除草剤
 - ⑥培土（1回目）⑥培土（2回目）
 - ⑦畦間かん水
 - ⑧病害虫防除（8月2～3半旬）
 - ⑧病害虫防除（8月4～5半旬）
 - ⑨適期収穫
 - ⑩乾燥・調製・選別

栽培管理のポイント

①排水対策

- ・額縁及び基幹排水溝の設置や心土破碎は前年秋～遅くとも4月までに実施
- ・額縁排水溝は深く掘り下げた排水口と連結し排水を促す

③土づくり

- ・土壌条件に応じた石灰質資材を施用し、土壌pH6.0～6.5へ矯正
- ・地力増進作物のすき込みや堆肥を施用

土づくり	肥料名	施用量 (kg/10a)
石灰質資材	苦土石灰	100～200kg
	堆肥 (春施用)	
	牛ふん堆肥	1～2t
	豚ふん堆肥	0.5～1t
	発酵鶏ふん	75～100kg
	籾殻堆肥	1～2t

④耕起・基肥施用・播種

- ・ほ場が乾いた条件で、耕起～播種の一連の作業は1日で実施
- ・適正な基肥施用（窒素基準量の厳守）
- ・播種時期に応じた栽植本数の確保

肥料名 (配合比：N-P-K)	土壌条件	施用量 (kg/10a)
BB基肥084 (10-18-24)	砂壤土	30～40
	壤土～埴壤土	20～30

播種時期	栽植本数 (本/10a)	播種量 ^{注)} (kg/10a)
5月6半旬～6月上旬	14,000～16,000	大粒：5.4～6.1 中粒：4.3～4.9

注）百粒重は大粒 34.7g、中粒 27.7g として計算
・苗立率 90%の場合

⑤雑草防除

- ・播種後は土壌処理除草剤を均一に散布
- ・雑草の種類や発生状況に応じた茎葉処理除草剤の適期散布
- ・難防除雑草の早期発見と開花結実前に徹底除去し、ほ場で処分・

⑥的確な中耕培土

- ・2～3葉期と4～5葉期頃の2回培土を確実に実施

【培土の効果】

- 根域の拡大、根粒の増加
- 雑草の抑制
- 排水の促進、土壌通気性の向上
- 倒伏防止

⑦畦間かん水

- ・開花期頃～9月上旬頃まで、晴天が3日以上続くと見込まれる場合は、積極的に畦間かん水
- ・短時間で入水し、ほ場全体に水が行き渡ったら水口を止め速やかに排水

⑧病害虫防除

- ・2回の基本防除（紫斑病、カメムシ）を確実に実施
- ・病害虫の発生状況に応じて随時防除を実施

⑨適期収穫

- ・収穫前に雑草や青立ち株を除去し、汚損粒を防止
- ・子実水分22%、褐色莢90%以上で収穫開始
- ・収穫速度0.4～0.8m/秒の遵守

⑩乾燥・調製

- ・乾燥は気温プラス5℃以内の送風温度と毎時乾減率0.3%以下で実施
- ・子実の仕上水分14%
- ・選別・調製の徹底等による異物混入の防止